



歯科治療で注意すべき薬について

みなさんは自分の飲んでいる薬が歯科治療に影響を与えるか与えないか、与えたとしたらどのような影響なのかご存知でしょうか。薬の中には歯科治療に大きな影響を与えるものもあるので注意が必要です。また、歯科治療後に出される薬で特定の患者さんに使えない薬もあります。今回は、歯科治療で注意すべき薬についてまとめました。

【歯科治療に大きな影響を与えるもの】

①血液を固まりにくくする薬

のうこうそく しんきんこうそく こうぎょうこやく こうけっしょうばんやく
脳梗塞や心筋梗塞を防ぐ抗凝固薬・抗血小板薬などと呼ばれる薬には、血液をサラサラにする作用があるため、出血すると血が止まりにくくなります。歯科治療では意外に出血する場面が多いので注意が必要です。だからといって歯科治療のために薬をやめてしまうと、血管内に血液の塊かたまりが出来たり、その塊が血管に詰まってしまうおそれがありますので、勝手に薬をやめないでください。歯科治療では薬を飲んだまま治療する場合があります。必ず主治医に確認してください。

《主な抗凝固薬・抗血小板薬》

- ・抗凝固薬：ワーファリン、イグザレルト、エリキュース、リクシアナ、
- ・抗血小板薬：シロスタゾール、クロピドグレル、バイアスピリン、
エフィエント、ブリリント

②骨を強くする薬

こつそしょうしょう
骨粗鬆症の治療に使われるビスホスホネート製剤と呼ばれる薬には重大な副作用として顎の骨あごが壊死えしする事があります。特に歯を抜いたりするような外科処置の刺激によって引き起こされることが多いです。予防には歯を抜いたりする外科処置までに至らないように、日頃からケアをしっかりと歯の健康を保つことが重要です。また、今はこの薬を飲んでいなくても昔飲んでいたか歯科医師に伝えることが大切です。なお、飲み薬だけでなく、注射

用のビスホスホネート製剤もありますので、定期的に注射をしている場合にはそれも伝えるようにしてください。

《主なビスホスホネート製剤》

ボナロン、フォサマック、アクトネル、ボンビバなど



③脳^の興奮を抑えて、てんかんの発作を防ぐ薬

てんかん発作に使われる薬の中でフェニトインを長い期間飲まれている方で歯肉が腫れてしまうことがあります。この歯肉の腫れは歯のあるところで見られます。歯肉の腫れによって歯周ポケットができたり、出血しやすくなったり、口臭の原因になったりします。この歯肉の腫れの予防には口の中をきれいに保つことが大切です。

《主な抗てんかん薬》

ヒダントール、アレピアチンなど

④血管を広げ、血圧を下げる薬

血圧を下げる効果のあるカルシウム拮抗薬きっこうやくと呼ばれる薬を長期間飲まれている方で歯肉が腫れてしまうことがあります。この予防には上記のてんかんの発作を防ぐ薬のときと同様口の中をきれいに保つことが大切です。

《主なカルシウム拮抗薬》

ニフェジピン、アムロジピン

【歯科治療後に出される薬で注意が必要なもの】

◎痛みを取る薬

アスピリンをはじめとする鎮痛薬を服用したときに、喘息発作ぜんそくほっさ（アスピリン喘息）が誘発ゆうはつされてしまう患者さんがいます。抜歯や歯科治療で鎮痛薬が処方されることがあるので、過去に鎮痛薬で発作を起こした経験がある人は、必ず歯科医師に申告するようにしてください。

《主な鎮痛薬》

ロキソプロフェン、ジクロフェナク、アスピリンなど

その他、抗生物質などにおいても使われる種類によってはアレルギーを引き起こすことがあります。持病やアレルギーをお持ちの方は必ず歯科医師に伝えるようにしてください。



～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～